令和４年度　３月１０日(金) 発行

卒業号

野坂中学校だより

祝 卒業

学校教育目標 「自分を伸ばす生徒の育成」
学校スローガン 「導き　引き出し　支える」

〒738-0043
廿日市市地御前北一丁目３番１号
☎0829-38-2001　FAX 0829-38-2569
✉nosaka-j-soshiki@hatsukaichi-edu.jp
校長　谷川　清二

第３３回　卒業証書授与式　3/8(水)

学校長　式辞（一部抜粋）

卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。振り返ると、みなさんの３年間は、コロナ禍という状況を抜きに語ることはできません。みなさんは、小学校６年生の２月の終わりから３月に小学校が臨時休業となりました。中学校に入学後も、１週間と少しで中学校が臨時休業となりました。分散登校により学校再開となったのが６月１日。感染予防をしながら部活動を行い始めたのが６月15日でした。これ以降、長期の臨時休業はありませんでしたが、２年生になっても感染防止対策として部活動を休止したことが何度かありました。そのような中でしたので、みなさんが楽しみにしている学校行事にも制限がありました。１年生、２年生の時の絆祭（体育大会）は種目をしぼって学年別での開催。絆祭（文化祭）においては、合唱を行うことができませんでした。１年生から２年生、そして３年生と少しずつ感染防止対策の状況が変化したり、時期に恵まれたりしたことで、みなさんは修学旅行に行き、たくさんのことを学んで、楽しむことができました。また、今年の絆祭（体育大会）では、３年ぶりに３つの学年がそろっての同時開催ができましたし、絆祭（文化祭）では、マスクをつけたままではありましたが学年合唱を行うことができました。

私は、卒業生のみなさんの入学と同じ４月にこの学校に来させていただき、入学式でみなさんをお迎えしました。卒業生のみなさんとで思い出されるのは、やはり一人一人と行った面接練習、特に今年の公立高校入試から取り入れられた“自己表現”の練習です。一人一人がたくさん準備をしてきて、緊張しながらも個性あふれる自己表現をしてくれました。タブレットでのプレゼンはもちろん、絵やイラストなどの作品を持ってきて説明したり、英検やピアノ・ダンスなど、自分が取り組んで獲得した賞状などを見せてもらったりしました。この経験は必ず将来に生きると思います。みなさんがこれから進む未来において、こういう自己表現や面接がこれから一度もない…ということはないと思います。どうかこの経験をこれからにいかしてください。

今年の絆祭 ～NOSAKA2022～ 体育大会においては、それまで２年間、学年ごとに行っていたので、みなさんは行事に取り組む先輩の姿を見てはいません。しかし、今年はいきなり最上級生として模範を示す立場となりました。その中で、テーマである「 Re ～魅せろ光り輝く本気のスマイル～ 」のとおり、様々な種目を楽しみながら時間を惜しみながら笑顔でやってくれました。また、学年で取り組んだ創作ダンス「 MY TIME TO SHINE 」では、振り付けをみなさん自身の手でゼロからスタートさせ、短い時間の中で完成まで持って行ってくれました。時間を積み重ねること、１人より５人、10人、100人と力を合わせることの楽しさを学んでくれたのではないかと思います。また、この取組は新たな野坂中の伝統になるのでは…とも思っています。文化祭では、テーマである「 Re ～伝える 青春のハーモニー～ 」のとおり、すばらしい歌声を披露してくれました。加えて、みなさんは、中国大会や県大会での活躍など中体連をはじめとする各種大会における活躍や、文化祭での発表や展示など、各種文化活動における活躍が光りました。中学校生活の中で、制限がありながらも、何かに集中して取り組んだ経験はかけがえのないものだと思います。また、生徒会長の松下さんをはじめ生徒会執行部のみなさん、自分たちは全てを経験していない中で、「絆祭 ～NOSAKA2022～」の企画や運営を見事に行ってくれました。特に、文化祭の運営・進行はすばらしかったと思います。また、地域のボランティア活動に積極的に参加したり、地元のラジオ番組に参加したりして、生徒の立場から野坂中学校の情報発信をしてもらいました。本当にありがとうございました。

そういうすばらしいみなさんに、２つお話しをします。一つ目は、「これまでを振り返り感謝の気持ちを忘れないでほしい」ということです。みなさんの成長を見守り支えてくれた方がいます。みなさんが苦しいとき寄り添ってくれた方がいます。みなさんがくじけそうなとき励ましてくれた方がいます。保護者や身近な方、友達や先生など、いろいろな人が思い浮かぶと思います。どうか「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えてください。二つ目は、「思いを一つに」です。これは、私がこの学校に来てから３年間、始業式や終業式などの儀式や行事があるたびにみなさんにかけてきた言葉です。意味は言葉の通りです。一人で物事を進めるならどうやってもいいのですが、何人かの集団で物事を進める場合は、目標とする姿や成功のイメージをお互いに共通理解をしておくことが大切です。例えば、この卒業式を迎えるにあたって、先生方はみなさんに「いい卒業式にしよう。」と声をかけられたと思います。これが「思いを一つに」です。これからもみなさんは、一人より何人かの集団で物事を進めていくことの方が多いと思います。その時に、目標とする姿や成功のイメージをお互いに共通理解しておくことの大切さ…「思いを一つに」をどこかで思い出してもらえたら…と思います。

卒業生のみなさん。これからも野坂中学校の卒業生として、高い志をもち、夢に向かって進んで行ってください。これからのみなさんの人生が夢と希望にあふれ、幸多きものでありますことを祈念し、式辞といたします。

学校だよりはホームページでカラー版をご覧いただけます。

卒業生を送ることば（一部抜粋）

これまで学校の代表として，野坂中学校を支え，引っ張ってくださった先輩方と今日でお別れだと思うと寂しさで胸がいっぱいになります。先輩方は，常に私たち後輩の憧れであり，目標でした。それは今も変わりません。そんな先輩方との思い出は，到底数えることができないほどたくさんあります。今日はその中から三つのエピソードを感謝の気持ちと共に伝えさせていただきます。

一つ目は，体育祭，文化祭です。まずは体育祭についてです。昨年度は，学年別に行われたため残念ながら先輩方のご活躍を直接拝見することができませんでした。しかし，今年度は全学年合同で行うことができました。練習から本気で取り組み，一つ一つの準備を丁寧に行う先輩方の姿はとても格好よく，輝いて見えました。そして当日の学級対抗リレーの時はあまりの迫力に思わず息をのむほどでした。手に汗を握る展開に引き込まれ，先輩方と一緒に私たちも一生懸命応援したことを今でもはっきりと覚えています。文化祭では学年合唱の時の先輩方の美しく息のそろった歌声に聞き惚れました。先輩方が3年間かけて築いてきた絆の力を肌で感じ，心を打たれました。先輩方の力強い合唱は，私たち後輩の合唱で目指すべき姿として強く印象に残っています。私たちの合唱にも的確なアドバイスをくださり，他学年の合唱もより良くしようとしてくださいました。先輩方にしていただいたことを今度は私たちが後輩に対してすることができるよう頑張ります。

二つ目は部活動と掃除です。この二つを通じ，上下関係の大切さを学びました。部活動では私たち後輩に対して様々なことを優しく丁寧に教えてくださりました。先輩方が優しく，時には厳しく接してくださった日々は私たちの支えとなっています。掃除では清掃リーダーとして掃除の割り振りを決めてくださったり，私たちでは気づかない細やかな清掃を見せてくださいました。野坂中学校の美しさは先輩方のおかげで維持されていると言っても過言ではありません。これからもその姿を見習って掃除を行っていきます。

三つ目は，委員会や行事での司会進行です。生徒会執行部の方々を中心に委員会活動や様々な行事の企画やその準備をし，実行にうつしてこられました。先輩方が様々なことを水面下で行ってくださったおかげで私たちは充実した楽しい学校生活を送ることができました。本当にありがとうございます。先輩方は，常に明るく振る舞われていましたが，その陰で様々な悩みや苦労があったと思います。そしてそれに負けずに野坂中学校の顔として３年間駆け抜けた先輩方が築き上げてくださった何事にも真剣に取り組むという野坂中学校の伝統を受け継ぎ，これからも誇り高い学校であり続けるよう，日々邁進していくことを誓います。

最後になりましたが，先輩方がそれぞれ輝かしい未来へと羽ばたいてご活躍されることを祈念し，卒業生を送る言葉とさせていただきます。

卒業生別れのことば

冷たい風が和らぎ、日の光に春の訪れを感じるようになりました。

私達は今、卒業の時を迎え、新たな出発への期待とともに、この野坂中学校から巣立つことに寂しさを感じています。

３年前の４月。無事に入学式を終え、始まった中学校生活。新しい友達もでき、これからという時に、突然休校となりました。思い描いていた　中学校生活とはまるで違うスタートでした。しかし、先生たちが友達とのかかわりを深めるために工夫をしてくださり、ドッジボール大会や百人一首大会など、私たちは、その時にできることを精一杯楽しむことができました。

１年生で印象に残っているのは、１１月に訪れた宮島です。美しい紅葉の中、厳島神社をはじめ、大聖院や千畳閣などを、班ごとに巡りました。友達と食べたあげもみじ、鹿との奮闘。やっと中学校生活を楽しいと思えた瞬間でした。

２年生での一番の思い出は、何と言っても修学旅行です。仲良しの友達と、いつも以上におしゃべりができたこと。大声で笑いあったこと。いろんな写真を撮ってもらったこと。海響館、秋芳洞、サファリパーク、別府の地獄めぐり、そして城島高原パーク。移動中のバスでは、普段あまり話すことがなかった人と話をしたりトランプをしたり。そして、ホテルの食事も最高でした。バイキング形式で、どれを選ぼうかわくわくするほどの料理の数々。それらを友達と一緒に選び、味わう時間は、かけがえのないものでした。おばけやしきで友達を置いて行って恨まれたり、集合時間に遅れて叱られたりすることもありましたが、そんな経験も含めて、二度とない中学校時代の修学旅行は、今思い出しても笑顔になれる幸せな時間でした。

そして迎えた最終学年。高校見学や平和学習など、多くの体験をしましたが、何より思い出深いのは、３年間で初めて、全学年で行う行事を経験できたことでした。体育祭の縦割りリレーでは、私たち３年生が走る時、１・２年生のみなさんが一生懸命応援してくれて、学年ごとの行事にはなかった感動を味わうことができました。リーダーを中心に３年生みんなで披露した創作ダンス～My time to shine～。初めての取り組みでしたが、みんなが踊れるようなダンスの振り付けを、リーダーが何度も何度も話し合いを重ねて、考えてくれました。そして、できるだけ先生に頼らず、お互いに教え合いながら練習を重ね、笑顔の本番を迎えることができました。

二学期に入り、いよいよ、一人ひとりが自ら進む道を選択していく時がきました。自分の進路をどうするか。高校入試制度も大きく変わり、私たちは、何をどうしたらよいか分かりませんでした。不安と迷いで押しつぶされそうになり、そのストレスを家族や友達にぶつけてしまうこともありました。授業だけでなく休憩時間も友達同士で勉強を教え合い、放課後は先生にアドバイスをもらいに行き、みんなで高校入試を乗り越えました。

今、卒業の時を迎え、私たちは、それぞれの道へと歩き始めます。中には、この廿日市から離れたところで高校生活を送る仲間もいます。いつも寄り添い励ましてくれた家族、楽しい時も辛い時も一緒にいてくれた友達、部活でともに汗を流した後輩、友人関係や進路に悩み不安でいっぱいだった私たちを親身になって指導してくださった先生方。また、地域のみなさまが、登下校やボランティア活動などを通し、温かく見守り続けてくださったことにも、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

最後に「道」という詩を朗読します。

「この道を行けば　どうなるものか
　危ぶむなかれ　危ぶめば　道はなし
　踏み出せば　その一足が道となり　その一足が道となる
　迷わず行けよ　行けばわかるさ」

これは、それぞれに分かれて新しい一歩を踏み出していく私たちに、学年主任の藤原先生が紹介してくださったものです。この詩を心のお守りにして、私たちはこの野坂中学校から旅立っていきます。

以上をもちまして、別れのことばといたします。本当にありがとうございました。